

巻頭言

慶應義塾大学商学部小野晃典研究会
第9期ゼミ長 水田弥英

2011年3月11日に起こった東日本大震災はマグニチュード9.0、最大震度7を記録し、震源地となった東北地方だけではなく、日本社会全体に未曾有の被害をもたらした。死傷者・行方不明者は2万人にのぼり、発生から2年経った今もなお、避難生活を余儀なくされている人々が32万人以上もいるといわれている。この超巨大地震は、地震、津波、そして原発事故によって、多くの人々の命や生活基盤を奪っただけではない。同時に、日本社会に蔓延っていた数々の「安全神話」を崩壊させたことによって、既存の社会体制の上に胡坐を掻き、安寧を貪っていた人々に衝撃を与えもした。

「原子力発電は安全であるうえに、環境に優しい」、「一度大企業に入れば安泰である」。こういった価値観は、東日本大震災を機に、いとも簡単に崩れ去ることとなった。これによって、我々は、既存の社会体制や価値観を常に疑い、見直し、そして意見を創造すること——「徹底的に考え抜くこと」の必要性を痛感せざるを得なかった。

さて、東日本大震災の発生から約1ヶ月後となる2011年4月7日、我々第9期生は、小野晃典研究会の門戸を叩いた。第9期生が、小野晃典研究会への入会を決めた理由は三者三様であり、気迫あるプレゼンを身に付けたいと意気込む者もいれば、日吉で存分に遊び尽くし、三田では勉学に励むことを誓った者もいた。しかし、入会の理由こそ異なっていたものの、「三田では徹底的に頑張りたい」という志は皆同じであり、入会してからの2年間、初志貫徹すべく、第9期生は全てのゼミ活動に全力で取り組んできた。

「徹底的」を目指し続けた日々は矢のごとく過ぎ去り、今、走馬灯のように思い起こされる——入会の翌日から始まった第1回ケース・メソッド、連日放課後に集まり行った役職決め、週末は決まって徹夜で取り組んだ基礎文献レポート・多変量解析実習レポート、互いに情熱をぶつけあったディベート、勝利に歓喜し惜敗に涙を呑んだ中央大学久保知一ゼミナール・関西大学岩本明憲ゼミナールとのインカレ・ディベート、果敢に挑戦した関西大学ビジネスプラン・コンペティション KUBIC、朝まで呑み明かした春合宿、夏ケースと三田祭論文中間発表に励んだ夏合宿、日本語／英語での三田祭論文執筆、各論文報告会で行ったプレゼンテーション、2年連続で出場した全国大学生マーケティング大会、2年生を魅了すべく準備に準備を重ねて開催したオープンゼミ、十ゼミチームの関東十ゼミ討論会での優勝と商学会賞受賞、良き理解者であり指導者であった先輩・第8期生との別れ、かわいい後輩・第10期生の入会、教えることの難しさと喜びを学んだ第10期生へのレクチャー、小野ゼミ史上初・国際学会での研究発表、解題に苦しんだ夏ケース、夏合宿、第9期特別聴講生・清水鈴さんの帰国、絶賛を博した「三田純豆腐チゲ&アスカ2」、悪戦苦闘しながらも互いに助け合いながら進めた卒業論文執筆、小野ゼミ史上最多となる卒業論文4本の商学会賞受賞内定、9期10期合同ケースで締めくくった最後の本ゼミ。

こうして第9期生が過ごしてきた日々を思い起こすと、まさに徹底的に遊び、徹底的に学んだ2年間であつたように思われる。そして、第9期生が徹底的に遊んだ証として、公式ホームページに掲載されているイベント・レポートがあり、徹底的に学んだ証として、本論文集『マーケティング論究』第9巻がある。本論文集に掲載されている全ての論文は、マーケティング論を学び始めて僅か2年である第9期生が、マーケティング論について「徹底的に考え抜き」、著名なマーケティング論者達が主張する仮説を疑い、見直し、新たな仮説を創造するという営為を実践した証であると言えよう。

我々第9期生は、本論文集の発刊を以て、ゼミ生活の終焉を迎える。毎日のように共にマーケティング研究に励んだ仲間、4月からは、それぞれ別々の道を歩みだす。東日本大震災によって誰もが信じて疑わなかった価値観が崩壊したことなどからわかるように、現代社会は日々激変し、全くもって先の見通しが立たない状態である。これからの社会人生活において、いくつもの試練が我々を待ち受けているであろう。しかし、第9期生は小野ゼミでの活動を通じて得た「徹底的に考え抜く」力を以てして、どんな試練も乗り越えていくことができるだろう。

末筆ながら、本論文集を執筆・編纂するにあたり、支えてくださった多くの方々に深い感謝の意を述べたい。まず、かわいい第10期生たち。君たちへの指導を通じて、マーケティング論に対する造詣をより深めることができた。さらに、卒論中間発表時に鋭い質問を投げかけ、我々の論文の質を高めてくれた。ありがとう。第8期生の先輩方。我々第9期生に、時に手厚く時に厳しく論文のいろはをご指導下さったのは第8期の先輩方でした。我々と幾夜も共にして親身にご指導下さるその姿に、小野ゼミの伝統を感じました。ありがとうございました。大学院生の先輩方。入会前は、大学院生の先輩方が、これほどまでに学部生と密に交流し、熱心に学部生を指導して下さるとは思ってもいませんでした。大学院生の先輩方の存在がなければ、我々の論文は一本たりとも完成し得なかつたでしょう。ありがとうございました。

最後に、未熟な第9期生を、2年間にわたって、熱心にご指導して下さった小野晃典先生。小野先生は第9期生に、「徹底的に頑張る」場所を与えて下さただけではなく、「徹底的に考え抜くこと」とはどういうことかを教えて下さいました。また、小野先生の添削によって真っ赤になった論文を受け取ったときや、昼夜を問わず研究の相談に乗って下さったとき、我々は、小野先生の研究に対する情熱、そしてゼミ生に対する愛情を強く感じました。小野先生の御指導があつたからこそ、我々第9期生は大いに成長することができました。本当に、ありがとうございました。いつか小野先生から賜ったご学恩に報いることができるよう、これからも精進していきたいと思います。

2013年3月吉日